



▼砂地を好むコニワハンミョウ

潤沼湖畔の親沢鼻や広浦などの砂地には、眼の前の地面から飛び立ったり、素早く地面の上を走り回ったりするコニワハンミョウが見られます。

本種は山地から平地まで生息し、河原や湖岸などの砂地を好む種類です。体長12mm内外で、北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島などに分布します。

近年、台湾などから来た外来種のトウキョウヒメハンミョウが人家の庭に見られるようになっていきます。体は8mmほどでハエが飛んだように見える虫です。なんと我が家の庭にもいました。注意して見てください。

▼ミチオシエの別名

ハンミョウの仲間には、コニワハン

里山に育む生きものたち

18 コニワハンミョウ (コウチュウ目 ハンミョウ科)

学名 *Cicindela transbaicalica japonensis* Chaudoir

写真・文／ 小菅 次男

ミョウの他ナミハンミョウ、ニワハンミョウなど22種が日本にいますが、いずれも道案内してくれる虫たちです。山道を歩いていると、人の前へ前へと道に沿って逃げていき、着地するとくるっと振り返るハンミョウ類は、その様子から「ミチオシエ」などと呼ばれてきました。

山道以外にも、空き地や河原、海岸など植物が少なく開けた場所に住んでいます。

▼殺し屋タイガー・ビートル(虎虫)

一見優しそうなハンミョウですが、実は恐ろしい殺し屋です。頭の左右に突き出してどんな獲物も見逃さない大きな複眼、軽快に走り獲物を追うのに都合のよい長い肢、顔の先で十文字に

食い違う草刈鎌の刃のような大あごは殺し屋の何よりの証拠です。この大あごにかかれば小さな虫などはあつという間です。

この様子はあたかも猫がネズミをおそう様子を連想させるので、英名では「タイガー・ビートル」(虎虫)と呼ばれています。

▼幼虫は待ち伏せ式の狩り

メスは土の中に、卵を1粒ずつ産み付けます。かえった幼虫は、その場所に垂直のトンネルを掘って生活します。幼虫の頭は固く平らになっていて、普段はそれで巣穴にふたをしています。が、近くを虫が通りかかると、一瞬にして体を乗り出し、大あごで捕まえて巣穴の中に引き摺りこみます。背中にはかきがついていて、巣穴の壁に引っかかるようになってるので、獲物が大きくても逆に引きずり出されないようになっています。

この穴を知っている昔の子供たちは、ニラの葉などの細い草の茎を穴に差し込み、噛みついてくるハンミョウの幼虫をつって遊んだりしました。そこでこのへんてこな幼虫を「ニラムシ」と呼んでいました。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111 FAX029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成25年8月31日現在)

◆総人口 34,320人 (-36) 男 17,188人 (-10) 女 17,132人 (-26) ◆世帯 12,613戸 (-7)

DATA

再生紙を使用しています



※環境に優しい大豆インクを使用しています